



先日（11月10日）の研究授業，本当にお疲れさまでした。今回の校内研修では岡山県から視察団の方々や小学校の先生にもご参加いただきました。行事が重なる中，時間を捻出して準備をしてくださった片本先生，水永先生，矢野先生，真剣に協議し意見を出してくださったみなさまのおかげで，新たな授業改善の視点を得ることができました。今回の研究授業の要点をまとめます。

ICTの使い方を考える ～協働学習の目的に応じて～

多くの授業の中で，ジャムボードやスプレッドシートなど，生徒たちが考えを出し合うための機能が使用されるようになってきました。岡山から来てくださった先生の意見からヒントをいただいたことがあります。それは，協働学習の目的に応じた使い分けです。協働学習の目的には，以下のことが考えられます。

① 個々の考えをクラス全体に紹介したい	② 役割分担をして，作業を行わせたい。
③ 班の考えをクラス全体に紹介したい	④ 班の中で個々の考えを協議しながら，「洗練された考え」を作りたい。

① クラス一人ひとりのより「多様な考え」を尊重し，視覚化したい場合に有効です。

② は，班で「分担」して，調査したこと（事実）などをまとめる場合に有効です。

現在，いろんな先生方の授業の中で，対話的な学びの実現のために，個人思考 ⇒ 班での思考 ⇒ 全体発表の過程をとる方法が多くみられると思います。この時，ポイントとなるのは，④にあるように，班の中で「協議」し「洗練された考え」を作ることです。しかし，ジャムボードを用いて一人一人が自分の意見を打ち込み，それだけで満足してしまうと，「協議」「洗練された考え」は生まれません。解決方法としては，次のことが考えられると思います。

A 班の中での考えの協議を先に行い，代表者が班の「洗練された考え」を打ち込み，全体で共有できるようにする。

B 個々の考えを打ち込んだ後，グルーピングを行い，個々の考えの共通点や相違点を協議することで，考えを深める。

考えを「共有」して終わるのではなく，どう「協議」して深めていくのかそういった視点を持っていきたいですね！

校長先生のあいさつより

・教員は，生徒に身に付けさせたいことをどうしてもたくさん盛り込もうとしてしまうため，精選が必要になる。

そのために… 生徒が何を求めているか，生徒の実態を把握していることが重要。

⇒ 生徒実態とそれに対する手立てを指導案に細かく記していくことが必要。

- ・単元を通した学びをリーフレット化したり，ワークシートやノートを学びのつながりを意識できるよう工夫したりすることで，学習の積み重ねが視覚化され，学びの深まりを実感することにつながる。
- ・生徒から「こうしていこう」「がんばろう」などの，学びに対して自発的で前向きな発言がでてくるのが授業の醍醐味であり，目指していくべき姿である。

3年 英語



2年 国語



1年 音楽



3年 英語 題材名「Unit 5 A Legacy for Peace」 : 片本教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味のあることをテーマにすることで、英語で文章を書く動機付けになっていた。 話す活動の手助けとなるワークシートがあり、苦手意識のある生徒も取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章をそのまま読むのではなく、キーワードを抜き出して、それをもとに話す練習をするとよい。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ペアで、発話する時間が多く、英語を使って様々な人と話す習慣を身に付けさせることにつながっている。 聞いたことに対して返答も考えることで対話的な学びにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話の質問の部分において、例示をそのまま写したり、書いて渡すだけになったりする部分があった。 ⇒ 即興で文章を構成し、伝える力を身に付けさせたい。
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 会話の練習の中で、課題を全体で共有し、解決方法を考える手法もある。 シンキングツールを使用して会話する手法もある。 	

2年 国語 題材名「君は『最後の晩餐』を知っているか～自分の好きなものの魅力を伝えよう～」: 水永教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単元の最初と最後に説明文を書くことで自分の高まりを比較させる工夫がある。 生徒の活動や発言に対して肯定的な声掛けを続けており、意欲につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題が複雑だったため、生徒が取り組むときに難しさを感じていた部分があった。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ジャムボードを活用し、考えを整理し、共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 考える対象を焦点化し、例示をすることで、生徒の思考をスムーズにする。 ジャムボードが打ち込む方に集中し議論になっていない所があった。 ⇒ 議論ののち、打ち込み全体に共有する工夫。
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通してのリーフレットを作成することで、学びの蓄積が視覚的に残されていた。 既習事項を使用することで、学びのつながりが実感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」ことを目標としたときに、評価基準を明確にし、めあてとまとめ・振り返りの整合性をもたせることで学びの深まりがわかりやすくしていく必要がある。 生徒の困り感を発見した場合、それをとりあげ、全体で解決方法を考えて学習の深めるとよい。

1年 音楽 題材名「曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう」 : 矢野教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールの映像を見るなど、行事の充実感を生かして、意欲を高めていた。 生徒たちからの自発的な声掛けが見られた。 曲をいくつかの部分に分けて、生徒たちに課題をつかませている。 	
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> 音楽記号について意識させたことで、生徒が音楽的な見方・考え方を使って表現することにつながっていた。 話し合いが、共有だけでなく、よりよくするための議論になっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知覚」「感受」などの難しい言葉の視点については、キーワードや例示があるとより分かりやすかった。
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 撮影・録音をして、合唱コンクールのとの比較できたら学びの深まりを実感できた。 	

